HP 用原稿　研修終了レポート

第一支部「明治神宮の森を歩き隊」

～鎮守の森とは、ふるさとの森、それは最も安定した本来の森の姿～

2026 年 1 月 2 8 日（水）、明治神宮において、第一支部「明治神宮の森を歩き隊」研修を、実施いたしました。参加者は 24 名（正会員 24 名）、スタッフ兼発起人坂東英利子（JGA 正会員、運営委員 1 名でした。講師は、NPO 法人千葉県森林インストラクター会 片山彰氏（グループ 1）、高橋和枝氏（グループ 2）、同会よりオブザーバースタッフ 4 名（森池正典理事長、金井康郎事務局含む）でした。

ほぼ何もないところに、全国から集められた献木から人工林をつくり、樹木自身の力できっと天然更新していけるはずだと、木々を植えた後は自然にまかせ、100 年かけて潜在自然植生の森が作られました。そんな森を作った国は他にあるだろうか。先達の残してくれたレガシーを、世界へ伝えたい、日本のネイチャーを語りたいと思いました。そのために基本的な樹木の名前を覚えることから始めました。

しかしネイチャーを語れるようになるには、現場で五感を使って覚えないと身に着きません。樹木、植物、野鳥の種類を覚えるコツは、一つの種類を確実に覚える、あとはその覚えた種類とは違うな、と段々気づいていく、わかってはいるがすぐに忘れてしまいます。しかし森林インストラクター会の先生のおかげで段々と覚えていくことが出来ました。

また第二次世界大戦の東京空襲で百何発もの焼夷弾が落とされた時に防火林となった常緑樹の話も伺いました。

後半は、逆に「この木は何」とクイズとなり、終了地点にたどりついた頃には、何種類かが同定できるようになりました。

今回も、ドイツの光学機器メーカー、カールツァイス株式会社様のご協力で無料で双眼鏡を使うことができました。例えば、5 メートル位の高さとなったサカキの木の葉や枝の形状を、双眼鏡の視野にいれて同定することが出来ました。

「明治神宮の森を歩き隊」研修発起人坂東英利子